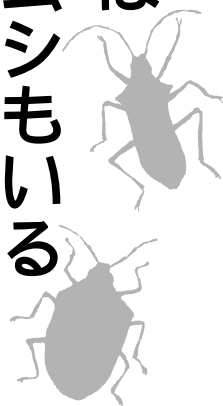


写真1 クモヘリ
カメムシ成虫（体
長16mm前後）。
関東以南で主役



写真2 アカヒゲ
ホソミドリメク
ラガメ成虫（体
長6mm前後）。全
国的に近年主役

田んぼには 天敵カメムシもいる



江村 薫

埼玉ではアカヒゲとクモヘリ
が増えている

昨年は、日本各地で斑点米カメムシ
が話題となりました。埼玉県内の水田
でもここ数年、山間山沿い地域では、
大型で関東以南で発生が多いクモヘリ
カメムシ（写真1）が、平坦部の河川
沿いでは、小型で北海道でとくに問題
となっていたアカヒゲホソミドリメク
ラガメ（写真2）が多発しています。

一〇年ほど前までの埼玉県の水田で
は、この二種を見つけることは困難で
した。クモヘリは暖冬の影響で、アカ
ヒゲは河川の土手などの植生単純化が
一つの要因と推定しています。斑点米
被害は、出荷された米の等級検査によ
って被害実態が判明するため、生産農
家にとっては収入の目算が狂い、地域
全体にとっては良質米生産地域のイメ
ージ低下を心配する事態となり、来年
の防除対策の計画に力が入ります。



写真5 ハネナガマキバサシガメ成虫（体長9mm）、小昆虫を捕食、コナガの天敵



写真3 カタグロミドリメクラガメ成虫（体長3mm前後）、ウンカ類の天敵



写真4 カタグロミドリメクラガメの幼虫。アブラムシに似ているが、動きが速く、体が扁平。手にのせると刺すのでわかる（宇根豊撮影）

天敵カメムシも たくさんいた

秋晴れのある日、斑点米の多発した水田を調査して驚きました。収穫後に再生して50cmほどに生長したイネには、あの憎いアカヒゲホソミドリメクラガメに交ざって、兄弟分のような形態をして、ウンカ類の卵の汁を吸うカタグロミドリメクラガメ（写真3、4）が、アカヒゲより少ないものの多数混在していたのです。この種類は、日本にはウンカ類とともに海外から長距離飛来する重要な天敵で、大量増殖の研究も行なわれています。

さらに、捕食性天敵であるハネナガマキバサシガメ（写真5）も交ざっていました。このカメムシに関しては、一般水田のすくい取り調査で頻繁に確認されています。一〇年ほど前に利根川隣接水田で七月下旬に行なった一五回すくい取りでは、ウンカ・ヨコバイ類の成幼虫合計が七個体に対して、ハネナガマキバサシガメは八個体であ

写真6 ハナカメムシ類
成虫（体長2mm前後）、
アザミウマやハダニの天
敵



写真7 ミナミキイ
ロアザミウマの幼
虫（右）を食べる
ヒメハナカメムシ
の一齢幼虫
（永井一哉撮影）

り、ウンカ・ヨコバイ類より高密度だ
ったことを思い出します。
その他、顕微鏡で観察すると、アザ
ミウマやハダニの天敵として著名なハ
ナカメムシ類（写真6、7）も水田で
多く確認されます。残念ながら肉眼で
観察するのはやや困難です。

三六二種のカメムシのうち 害虫はわずか二種

以上のように、水田内には多くの天
敵カメムシ類が生息しています。さら
に畦畔や雑草地には、水稻の害虫とな
らない多種多様なカメムシ類が生息し
ています。埼玉県で確認されているす
べてのカメムシ類は三六二種ですが、
そのうち問題になるのは二種です。山
間沿いと平坦部で各一種ずつが斑点米
カメムシとして問題化しているわけ
です。このことを十分に認識した診断と
防除対策が必要と考えています。

（埼玉県農林総合研究センター
生産環境担当 主任研究員）